

平成 28 年度（ 社会科 ） 授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1 年	○積極的に挙手して発言させる。 ○社会的事象に対する興味・関心をもたせる。 ○より内容を理解させる。	○ワークシートに記入させたり、班で話し合わせるなど、発言しない生徒にも考えさせる機会をつくる。 ○授業の導入時などに関連するニュースなどを話題として取り上げ、生徒の興味関心を引き出すようにする。 ○小テストなどを定期的に実施し、知識を定着させる。	○ノートへの感想の記入などを促し、ノート点検の際に評価していく。 ○生徒が自分の身に照らし合わせて考えることができるような授業を組み立てる。 ○定期テスト前に補充教室を行う。
2 年	○歴史に対して苦手意識をもたせないように指導する。 ○諸資料から読み取った内容を文章で表現させる。 ○学習内容と社会的事象の関連性を捉える。	○単発で用語を教えるのではなく、歴史の流れが理解できるような説明と板書を行う。 ○資料を読み取る時間、読み取ったものを文章にまとめる時間を十分に確保する。 ○授業で扱った内容に関するニュースや話題を授業で紹介し、授業内容と社会的事象の関連性に気付かせる。	○年表に歴史用語などを記入させ、歴史の流れを整理する学習を取り入れる。 ○複数の資料を照らし合わせて読み取りを行い、表現力を豊かにするような授業を組み立てる。 ○授業と関連する話題が載っている新聞記事をまとめさせ、学習内容を深めるような授業を組み立てる。
3 年	○基本的な社会用語をしっかりと覚えさせる。 ○文章をまとめる力をつける。 ○社会的事象を諸資料から読み取る力をつけさせる。	○授業の終わりに本時の学習内容を振り返り、知識の定着を図る。 ○計画的に班活動などの言語活動を取り入れ、様々な考えを 1 つにまとめる力が身に付くようにする。 ○社会的事象に関する資料を読み取る時間をより多く設定し、読み取るためのポイントを学ぶ授業展開にする。	○知識が身に付いていないと思われる生徒には定期考査前の補充教室で個別指導を行う。 ○言語活動を充実させ、文章をまとめる機会を増やし、慣れるようにする。 ○資料活用能力が低い生徒への机間指導を丁寧に行う。理解が進んでいる生徒に対しては、要求水準を高くする。